

## もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	西部県民センター	氏名	進藤 由佳子
派遣先 団体名	NPO法人 息域スペース ポコ・ア・ポコ		

### ① 研修の日時

平成26年9月29日(月)～平成26年10月3日(金) 8:40～16:00

### ② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)

- ◆1日目 ・自主製品についての説明 ・ふきとりーなの作成
- ◆2日目 ・活動の概要、経過、課題について代表より説明を受ける  
・製品説明のプリント作成(色塗り)
- ◆3日目 ・会員向けお便りの発送準備 ・ひまわりの家等施設見学  
・生け花
- ◆4日目 ・生け花の展示先見学 ・ふきとりーなの作成
- ◆5日目 ・しの武さんの展覧会見学 ・カーテンたわしの作成

～作業の様子やできあがった製品～



### ③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

福祉の現場に参加することは私にとって初めての経験でした。今まで障がいを持つ人に接する機会がほとんどなく、初日を迎えるまでは、どのように接すればいいのだろうと迷い不安な部分が正直ありました。しかし実際に現場に参加させていただいて、そのように不安に感じたことが恥ずかしくなりました。当たり前のことですが、一言に「障がい」といっても、その実態は様々です。不自由の内容や度合いの違いはもちろん、それぞれが一人の人間なので性格も趣向も異なり、同じ言葉でくれるものではありません。私は今回の研修を通し、「みんなちがって、みんないい。」そんな言葉を実感できました。障がいがあるとかないとかではなく、それぞれが自分と相手が異なっていることを認め尊重し、相手の立場にたって思いやることが大切なのだと思います。

ポコ・ア・ポコで実現されていたのは、それぞれが無理なく、それでいてお互いを大切にしあうことができる、そんな環境でした。「息域スペース ポコ・ア・ポコ」という印象的な名前には、「ゆったり息ができること」、「生きる域があること」といった様々な意味が込められているそうです。まさに名前のおりの場所であるなあと思えました。

代表の小川さんからポコ・ア・ポコの立ち上げから経過、課題等についてお話を聞く時間がありました。その時に伺った、「福祉は何か1つだけでは成り立たない」といった旨のお話がとても印象に残っています。どんな課題も一朝一夕で解決できるものではなく、多角的なアプローチが必要だと思います。行政、民間企業、NPO、地域社会等、異なった特性をもつものがそれぞれの強みを生かしていくことで課題の改善、解決につながっていくのだと感じました。ポコ・ア・ポコは利用者の皆さんにとってゆったりと息のできる必要な場所であり、NPOならではの柔軟性がありました。一方で活動にはスタッフ、建物、財源等が必要で、継続性の確保という課題を抱えていらっしゃいました。ポコ・ア・ポコのような場を直接行政が提供するの難しいと考えますが、行政の強みを生かした支援で、抱えている課題に対して少しでも力になれるのではと思います。この点については、今後よく考えていく必要があると感じました。

あっという間の5日間でしたが、多くを考えさせられた大変有意義な研修になりました。最後に、温かく迎えてくださって多くを学ばせてくださったポコ・ア・ポコの皆さまに、多大な感謝の意を示したいと思います。本当にありがとうございました。

### ④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。